

任意の原始再帰関数をどこかの g_n で支配できる 原始再帰関数列 $\{g_n\}_{n \in \omega}$ の構成とその証明 in PRA

橋本 航気

2022 年 10 月 28 日

概要

一階算術の Σ_1 より少し弱い体系 PRA (Primitive Recursive Arithmetic) でタイトルの定理を示すためには Δ_0 帰納法でうまくやりくりしなくてはならない. この”うまくやりくり”の部分は 3 節にまとめた. 2 節の証明はメタのそれとまったく同じである.

目次

1	一階算術の形式的体系 PRA の定義	1
2	タイトルのやつ	1
3	直感的に明らかだけどちゃんとした証明は大変なやつの証明	3

1 一階算術の形式的体系 PRA の定義

書くのがめんどくさいので Simpson [2] IX.3 節を見て下さい. 形式的体系に興味がない人は PRA \vdash をメタだと思ってもらってもよいです.

2 タイトルのやつ

定理 2.1. 任意の原始再帰関数 (記号) f に対して, 次を満たす $n \in \omega$ が存在するような原始再帰関数列 $\{g_n\}_{n \in \omega}$ が存在する*1.

$$\text{PRA} \vdash f(x_1, \dots, x_k) < g_n(\max\{x_1, \dots, x_k\})$$

証明. 所望の $\{g_n\}_{n \in \omega}$ は以下のように再帰的に構成される. まず $g_0(x) = x + 1$ とする. g_n が与

*1 便宜上 $k = 0$ なら $\max\{x_1, \dots, x_k\} = 0$

えられているとして, g_n をイテレートする原始再帰的関数 I_n が次のよう定まる.

$$\begin{aligned} I_n(x, 0) &= x \\ I_n(x, y + 1) &= g_n(I(x, y)) \end{aligned}$$

ω 上で考えると $I_n(x, y) = \underbrace{(g \circ \cdots \circ g \circ g)}_{y \text{ 個}}(x)$ であるので, この直感に沿って $I_n(x, y) = g^y(x)$ と表記しよう. そして g_{n+1} を $g_{n+1}(x) := g_n^{x+2}(x)$ と定める. 以上で構成される列 $\{g_n\}_{n \in \omega}$ が原始再帰的関数の列になっていることは定義から明らか. $\{g_n\}_{n \in \omega}$ に関する基本的な性質として次が成り立つ (証明は 3 節に書いた).

1. 任意の n について $\text{PRA} \vdash \forall x, y (x < y \rightarrow g_n(x) < g_n(y))$
2. $n < m$ ならば $\text{PRA} \vdash \forall x (g_n(x) < g_m(x))$

主定理は原始再帰的関数の構成に関する帰納法で示す.

ゼロ関数・後者関数・射影関数

$$\begin{aligned} Z(x) &= 0 < g_0(0) \\ S(x) &= g_0(x) < g_1(x) \\ P_i^k(x_1, \dots, x_k) &= x_i \leq \max\{x_1, \dots, x_k\} < g_0(\max\{x_1, \dots, x_k\}) \end{aligned}$$

この証明中だけの略記として $\text{PRA} \vdash f(x_1, \dots, x_k) < g_n(\max\{x_1, \dots, x_k\})$ を端的に $f < g_n$ と書く.

合成

m 個の k 変数関数 f_1, \dots, f_m と m 変数関数 h について, ある n_1, \dots, n_m, n_h で

$$f_1 < g_{n_1}, f_2 < g_{n_2}, \dots, f_m < g_{n_m}, h < g_{n_h}$$

となっていたとする. このとき $n := \max\{n_1, \dots, n_m, n_h\}$ をとれば

$$f_1, \dots, f_m, h < g_n$$

となっている. 任意に x_1, \dots, x_k をとる. いま各 $1 \leq i \leq m$ について

$$f_{n_i}(x_1, \dots, x_k) < g_n(\max\{x_1, \dots, x_k\})$$

であるので,

$$\max\{f_1(x_1, \dots, x_k), \dots, f_m(x_1, \dots, x_k)\} < g_n(\max\{x_1, \dots, x_k\})$$

となる. したがって

$$\begin{aligned} h(f_1(x_1, \dots, x_k), \dots, f_m(x_1, \dots, x_k)) &< g_n(\max\{f_1(x_1, \dots, x_k), \dots, f_m(x_1, \dots, x_k)\}) \\ &< g_n(g_n(\max\{x_1, \dots, x_k\})) && (\because g_n \text{ の単調性}) \\ &\leq g_{n+1}(\max\{x_1, \dots, x_k\}) \end{aligned}$$

原始再帰

k 変数関数 f_0 と $k + 2$ 変数関数 h について $f_0, h < g_n$ だったとする。このとき

$$\begin{aligned} f(x_1, \dots, x_k, 0) &= f_0(x_1, \dots, x_k) \\ f(x_1, \dots, x_k, y + 1) &= h(x_1, \dots, x_k, y, f(x_1, \dots, x_k, y)) \end{aligned}$$

で定まる f について $f < g_{n+1}$ であることを示す。 x_1, \dots, x_k を固定し、 y に関する帰納法で以下を示す。

$$f(x_1, \dots, x_k, y) < g_n^{y+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\})$$

$y = 0$ なら自明。

$$\begin{aligned} f(x_1, \dots, x_k, y + 1) &= h(x_1, \dots, x_k, y, f(x_1, \dots, x_k, y)) \\ &< g_n(\max\{x_1, \dots, x_k, y, f(x_1, \dots, x_k, y)\}) \\ &\leq g_n(\max\{x_1, \dots, x_k, y, g_n^{y+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\})\}) \quad (\because \text{帰納法の仮定と } g_n \text{ の単調性}) \\ &\leq g_n(g_n^{y+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\})) \quad (\because x_1, \dots, x_k, y < g_n^{y+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\})) \\ &= g_n^{y+2}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\}) \end{aligned}$$

したがって任意の x_1, \dots, x_k, y について

$$f(x_1, \dots, x_k, y) < g_n^{y+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\}) < g_{n+1}(\max\{x_1, \dots, x_k, y\})$$

□

3 直感的に明らかだけどちゃんとした証明は大変なやつの証明

証明. 次の (a)&(b)&(c) がすべての $m \in \omega$ で成り立つことを m に関する帰納法で示す。

(a) $\text{PRA} \vdash \forall x, y [x < y \rightarrow g_m(x) < g_m(y)]$

(b) $\text{PRA} \vdash \forall x, y [x < g_m^{y+1}(x)]$

(c) $\text{PRA} \vdash \forall x (g_m(x) < g_{m+1}(x))$

以降 (b) $_m$ と書いて、「 m に関する (b)」を表す。また、単に帰納法の仮定といった場合、最も入れ子が浅い帰納法の仮定を指すと約束しておく。

まず (a) $_0$, (b) $_0$, (c) $_0$ が成立することを見る。(a) $_0$ は自明。

(b) $_0$ は x を固定し、 y に関する帰納法で示す。 $y = 0$ なら $x < x + 1$ よりよい。 $y + 1$ について、

$$\begin{aligned} g_0^{y+2}(x) &= g_0(g_0^{y+1}(x)) > g_0(x) && (\because \text{帰納法の仮定と (a)}_0) \\ &> g_0(x) = x + 1 > x \end{aligned}$$

(c) $_0$ x を任意にとる。このとき (b) $_0$ より $g_0(x) < g_0^{x+1}(g_0(x))$ なので、(a) $_0$ から以下が成り立つ。

$$g_1(x) = g_0^{x+2}(x) = g_0(g_0^{x+1}(x)) > g_0(x)$$

次に (a)m, (b)m, (c)m が成立すると仮定して $m + 1$ でそれぞれが成立することを見る。

(a)m+1 まず $x < y$ を固定しておく。定義から $g_{m+1}(y) = g_m^{y+2}(y) = g_m(g_m^{y+1}(y))$ であり、同様に $g_{m+1}(x) = g_m(g_m^{x+1}(x))$ ゆえ、 $g_m^{x+1}(x) < g_m^{y+1}(y)$ を示せば (a)m から帰結される。そのためには次の二つを示せば十分。

1. $\forall i [g_m^{i+1}(x) < g_m^{i+1}(y)]$
2. $\forall z (\forall w < z [g_m^{w+1}(y) < g_m^{z+1}(y)])$

実際、1 から $g_m^{x+1}(x) < g_m^{x+1}(y)$ が分かり、2 から $g_m^{x+1}(y) < g_m^{y+1}(y)$ が従う。まず 1 を i に関する帰納法で示す。 $i = 0$ は (a)m なのでよい。 $i + 1$ の場合も、帰納法の仮定と (a)m より

$$g_m^{i+2}(x) = g_m(g_m^{i+1}(x)) < g_m(g_m^{i+1}(y)) = g_m^{i+2}(y)$$

2 を z に関する帰納法で示す。 $z = 0$ は自明。 $z = 1$ とする。このとき (a)m より $g_m^1(y) = g_m(y) < g_m^2(y)$ 。

$1 \leq z$ で成立するとして $z + 1$ での成立をみる。まず $w = 0$ のとき、(b)m より $y < g_m^{z+1}(y)$ なので (a)m から

$$g_m(y) < g_m(g_m^{z+1}(y)) = g_m^{z+2}(y)$$

次に w は $0 < w < z + 1$ だとする。 $w = w' + 1$ なる $w' \geq 0$ がただ一つある。 $w' < z$ ゆえ、帰納法の仮定から $g_m^{w'+1}(y) < g_m^{z+1}(y)$ である。よって (a)m と合わせて

$$g_m^{w+1}(y) = g_m(g_m^{w'+1}(y)) < g_m(g_m^{z+1}(y)) = g_m^{z+2}(y)$$

を得る。

(b)m+1 まず x を固定しておく。 y に関する帰納法で示す。 $y = 0$ なら (b)m より

$$x < g_m^{x+2}(x) = g_{m+1}(x) = g_{m+1}^1(x)$$

y でよいとし、 $y + 1$ については以下。

$$\begin{aligned} x &< g_m(x) && (\because (b)m) \\ &< g_m(g_{m+1}^{y+1}(x)) && (\because \text{帰納法の仮定から } x < g_{m+1}^{y+1}(x), \text{ および (a)m}) \\ &< g_{m+1}(g_{m+1}^{y+1}(x)) && (\because (c)m) \\ &= g_{m+1}^{y+2}(x) \end{aligned}$$

(c)m+1 x を固定しておく。先ほど示した (b)m+1 から $x < g_{m+1}^{x+1}(x)$ であり、(a)m+1 によって

$$g_{m+1}(x) < g_{m+1}(g_{m+1}^{x+1}(x)) = g_{m+1}^{x+2}(x) = g_{m+2}(x)$$

以上ですべての帰納法が完了した。

$n < m$ ならば $\text{PRA} \vdash \forall x (g_n(x) < g_m(x))$ を示す。 n を個定し、

$$\forall m > n [\text{PRA} \vdash \forall x (g_n(x) < g_m(x))]$$

を m に関する帰納法で示す。 $m = n + 1$ なら (c) そのものである。 $m + 1$ についても (c) と帰納法の仮定から即座に成り立つ。 \square

参考文献

- [1] 田中 一之, “数学基礎論序説 数の体系への論理的アプローチ”, 裳華房, 2019.
- [2] S. G. Simpson, *Subsystems of Second Order Arithmetic, Perspectives in Mathematical Logic*. Springer-Verlag, 1999.